

令和2年度(2020年度) 市立札幌病院一括公表

1 インシデント

レベル	件数		説明
	元年度	2年度	
レベル0	2,296件 (52.0%)	2,341件 (59.9%)	前もって気づいた事例(例:採血管が不足しているのに気がついた等)
レベル1	1,460件 (33.1%)	1,124件 (28.8%)	実害がなかった事例(例:薬の与薬時間が遅れた等)
レベル2	659件 (14.9%)	444件 (11.3%)	確認のための検査は行ったが、処置や治療を行なわなかった事例(例:転倒で打撲した箇所のレントゲン検査を行った等)
計	4,415件 (100%)	3,909件 (100%)	

2 アクシデント

レベル	件数		事例概要 ※レベル3b以上
	元年度	2年度	
レベル3a	258件 (93.8%)	176件 (91.2%)	○簡単な治療や処置を要した事例(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与等)
レベル3b	12件 (4.4%)	13件 (6.7%)	○濃厚な処置や治療を要した事例(バイタルサイン*1の高度変化、人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院、手術等) (事例の概要:過失なし) ① 内視鏡的逆行性胆道膵管造影時に十二指腸穿孔を来し、内視鏡用クリップで閉鎖した ② 腹腔鏡下手術中*2臓器の炎症が高度で再建術が必要となったため、開腹手術へ移行した ③ 内視鏡的治療後、膵炎を発症し集中治療が必要となった ④ トイレに歩行中転倒し、大腿骨骨折を来し手術となった ⑤ 手を伸ばし床頭台に物を戻そうとしてベッドより転落、大腿骨骨折を来し、安静治療が必要となった ⑥ 疼痛緩和のためブロック治療*3を行ったところ排尿障害を来し、治療が必要となった ⑦ 食事中の窒息で心肺停止となり、集中治療が必要となった ⑧ トイレに行こうと歩行器に手をかけたところ転倒し、胸椎圧迫骨折を来し、安静治療が必要となった ⑨ 手術時に挿入したドレーン*4を5日後に抜去した際、抜去部より出血があり、経カテーテル動脈塞栓術*5を施行し止血した ⑩ 抗癌薬の血管外漏出*6により治療が必要となり入院期間が延長した ⑪ 歩行中に転倒し下顎裂創・骨折を来し、観血的処置*7が必要となった ⑫ 点滴スタンドが隣のベッドに引っ掛かり転倒、膝蓋骨骨折を来し、予定していた治療・退院が延期となった (事例の概要:過失あり) ⑬ 手術終了直後に手術器具の不具合による体内遺残が発覚し、再手術となった (主な再発防止の取り組み) ・同等の対象器具すべてを点検した ・定期的に器具を点検するよう計画した ・器具の構造について再学習した

レベル	件数		説明
	元年度	2年度	
レベル4	4件 (1.5%)	3件 (1.6%)	○障害が残った事例 (事例の概要：過失なし) ① トイレで転倒し頸髄損傷となり四肢に不全麻痺*8を来した ② 窒息により心肺停止となり、低酸素脳症*9による意識障害が残存した ③ 手術後帰室準備中に心肺停止となり、蘇生されたが低酸素脳症による意識障害が残存した
レベル5	1件 (0.3%)	1件 (0.5%)	○死亡となった事例（原疾患の自然経過によるものを除く） (事例の概要：過失なし) ・重症肺炎で治療中、栄養チューブ*10の挿入により気胸を起こし、その後原疾患が悪化し死亡した
計	275件 (100%)	193件 (100%)	

*1 バイタルサイン（生命徴候）：脈拍、呼吸、体温、血圧などのこと

*2 腹腔鏡下手術：数か所小さな創を開け、鉗子やメスなどを入れる通路となる筒状の器具を挿入し、内部を映すカメラ（腹腔鏡）の映像を見ながら行う手術のこと。開腹しないため侵襲が少ない

*3 ブロック治療：神経や神経の周囲に局所麻酔薬を注射して痛みを取り除く方法のこと

*4 ドレーン：組織腔にたまった浸出液や血液を体外に排出するために、管を挿入すること

*5 経カテーテル動脈塞栓術：カテーテルを動脈に挿入し、その動脈から塞栓物質を注入して止血などの治療を行うこと

*6 血管外漏出：血管内に投与されるはずの薬液が何らかの原因で血管外に浸潤したり、漏れ出した状態のこと

*7 観血的処置：出血を伴う処置のこと。本事例においては創部縫合処置を行った

*8 不全麻痺：麻痺は中枢神経や末梢神経にダメージを受けたことが原因で起こる。そのうち不全麻痺は、手足に力を入れられなくなり、触覚などが衰えてしまう症状のこと

*9 低酸素脳症：心肺停止など脳に十分な酸素が届かない状態により、脳細胞がダメージを受けた状態のこと。脳への酸素供給不足の時間により障害の程度が違う

*10 栄養チューブ：体に栄養を補給するために、鼻から胃まで入れるチューブのこと

【レベル1～5 インシデント・アクシデント 種類別割合】

